

令和7年度 学校関係者評価書			
鈴鹿市立深伊沢小学校			
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上×ICT活用	<p>1 授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員のICTを取り入れた研究授業実施 →3回/年 年3回達成</li> <li>2 読書活動の推進           <ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出冊数の増 →1月末時点でR6より貸出冊数が253冊減</li> <li>・図書巡回指導員の活用 →全学年1回以上/学期 学期に1回以上達成</li> <li>3 基礎学力の定着           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポラントピアの活用(プリント学習等) →児童アンケートによる検証「計算ができるようになってきた。」97.9%「学校の勉強はわかる」92.3%</li> <li>「学校は一言プリント学習などで基礎学習の定着を図っている、こどもの基礎・基本の力に効果が出ている。」87.6%</li> <li>・家庭学習強化週間の取組 →チェックシートによる検証「こどもに家庭学習や読書の習慣がついてきた。」→69.1%</li> <li>4 教員のICT活用の向上           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用についての研修実施 →3回以上/年6回実施</li> <li>(成果と課題)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートで「学校の勉強はわかる(ICTの活用)」の結果は、高水準を維持している(94.3%→92.3%)</li> <li>・図書委員によるイベント開催や、本の紹介や読み聞かせなどで図書巡回指導員を活用したことで、読書冊数が若干向上した月もあった。</li> <li>・ポラントピアの活用により、子どもも意欲向上につながった。</li> <li>・家庭学習強化週間に向けて、事前に生活リズムを色分けすることで、強化週間へのめあてを立て、意欲的に取り組むことができた。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li></ul>	<p>ICTを効果的に取り入れた活動が増え、主体的な学びにつながっていると思う。ICT活用が高学年は的確にできている。低学年でも先生がICTを利用して分かりやすい内容だった。アンケート結果が上昇しているため、分かりやすい授業を進めていると感じる。時代に合わせた様々な全国で行って、よいと思う。</p> <p>○全学年学習調査で3教科とも全国平均を上回ったのは評価できる。小学校でのつまづきは、この先、その子にとっていろいろな面で支障になってくると思う。こどもたちが勉強嫌いにならないようにご指導いただきたい。</p> <p>○プリント学習は競い合ったり、教え合ったりして、こどもたちのやる気が見え、学力の向上につながればと感じる。</p> <p>○朝の時間に読書の習慣づけることができればよいと思う。</p> <p>○中学校区で授業公開等の研修の場を持ち、小中学校で一貫した学び方を育ててほしい。深まる学びにつなげていきたい。もっと知りたい、確実な力をつけたいと思う活動を取り入れ、家庭学習につなげていくといいと思う。</p> <p>○端末や図書の本も入り、ランドセルがとても重い。登下校の事故が心配である。</p> <p>○親子で図書室を利用できる機会やこども新聞を活用できないか。</p> <p>○貸出冊数や読書時間を増やすのに加え、読書が身になっているか検証できればよい。</p> <p>○児童のICT活用の上は必須であるので、教員の皆さんもレベル向上に努力してほしい。</p>	<p>・ICTの効果的な活用とともに、こどもの主体的な学びをめざした授業改善を行う。</p> <p>・教員のICT研修を継続実施する。</p> <p>・朝読の時間を設ける。図書担当や図書委員を中心に、本に親しむ機会を作っていく。また、読書週間や教員による読み聞かせの取り組みも継続する。</p> <p>・基礎学力定着のため、プリント学習を学期に1回以上実施するとともに、個に応じた指導を行い、家庭での協力も得る。</p> <p>・児童の主体的な学習活動を進めていく中で、粘り強くやり抜く力の育成を図るとともに、適切な教師の見取りと支援を行う。</p>
長期欠席対策	<p>1 新たな長期欠席児童を生まない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席理由の把握 →こども支援シート・家庭訪問シートの作成</li> <li>・早期対応、保護者・関係機関との連携</li> <li>→ケース会議の開催・保護者からの聞き取り・幼保からの聞き取り</li> </ul> <p>2 スクールカウンセラー、外部機関の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回のカウンセリング時間の活用充実 →利用した保護者からの聞き取り</li> </ul> <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育コーディネーターが中心となって、早期にスクールカウンセラーにつなぐとともに、適宜ケース会議と支援会議を設定した。また、必要に応じて関係機関につなげることができた。このことにより、児童や保護者の心のケアや適切な支援体制をとることができた。</li> </ul>	<p>○長期欠席児童が減少傾向にあり、これまでの早期対応の結果だと思う。</p> <p>○欠席が続く児童への対応が、家庭訪問や電話連絡にて状況を把握して、教員間での情報共有ができていた。</p> <p>○保健室登校など個々に合わせてご指導いただいていると感じる。保護者との対話も密であり、全ての先生が把握されていると感じる。働き方改革の中、先生同士の理解をこれほど深めるには、かなりの時間を要していると思う。支援のあり方は様々で、もっと職員を増やす他ないと感じる。</p> <p>○朝の登校時の様子を見て、学年に相応した態度が見られる。</p> <p>○長期欠席の理由、原因は要因がいろいろある要因があると思うが、早期対応や保護者、関係機関との連携により、一日でも早く学校に通えるよう、対応いただきたい。</p> <p>○各個人の個性をうまく引き出していく指導をお願いしたい。</p> <p>○日頃の観察、情報交換により、全職員でこどもに言葉かけを行い、集団で学ぶ楽しさを体得させてほしい。</p>	<p>・こども一人ひとりの状況を丁寧に把握し、こどもの良好な関係を築く。</p> <p>・スクールカウンセラーを活用し、未然防止・早期対応に努める。</p> <p>・こども支援シート、家庭訪問シートを活用し、校区全体で共通理解を図る。</p>
非認知能力	<p>1 児童の非認知能力の現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポジティブメッセージカード・成長カードの取組</li> <li>・非認知能力を育む絵本の推奨</li> <li>・全学年児童アンケート及び授業の実施</li> <li>→児童アンケートでの自覚に関する肯定的な回答80%以上 →91.7%</li> </ul> <p>2 縦割り班活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割り遊び、縦割り掃除の実施 →児童の感想</li> </ul> <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3学期に学年を越えたポジティブメッセージカードに取り組みむことができた。</li> <li>・教師による非認知能力に関する絵本の読み聞かせを行い、担任以外の先生からの読み聞かせにも子どもたちも喜んでいました。</li> <li>・非認知能力についてのアンケートでは、自覚に関する肯定的な回答は91.7%であった。特にメディアコントロールについては、強化週間の取組を通して、児童に意識させたことで改善が見られた。</li> <li>・縦割り班活動は、6年生では計画を立ててやりぬこうとする力や責任感が高まった。低学年からは、楽しかったという声が多く上り、6年生を良い手本とし、思いやる姿などが見られた。また、縦割り班掃除でも、お掃除名人を目指して意欲的に取り組む姿が見られた。</li> </ul>	<p>○ポジティブメッセージカードは、教職員もこどもたちも、その成果を意識できるよい取組だと思う。保護者目線で見ても、とてもおもしろかった。</p> <p>○低学年も文字にするのが難しいなら、簡単なマークやシールを使ってできるとよい。</p> <p>○教科の学習だけでなく、人格形成のために、とても大切な教育だと思う。</p> <p>○非認知能力の調査で、社会性の説明である「人が困っている時は、進んで助けている。」の否定的回答割合が、全国平均を大きく上回っているのが少し気になる。</p> <p>○非認知能力の向上は大変難しい取組で、正確に把握するのが難しいと思う。</p> <p>○縦割り班活動については、高学年の子が低学年の子に優しく接しているのが素晴らしいと思った。的確に助言していた。大変良い取組である。高学年の児童は低学年の児童の目本になることが求められる。伝統となっている大切な活動と思う。高学年の姿勢が素晴らしい、頼もしい存在である。</p> <p>○学年のこえた仲間意識を育てていくよい活動だと思う。クラス替えがないデメリットを補うことができる大変良いしくみだと思う。</p>	<p>・異学年交流を、社会性やコミュニケーションスキルの向上、思いやり等の育成を目的として位置づけ、縦割り班活動でこども主体の取り組みを尊重する。</p> <p>・ポジティブメッセージカード、成長カードに取り組み、非認知能力を育成する。</p> <p>・「やり抜く力」「自覚心」の向上を図るため、児童の美態を把握した上で、学習活動を通して適切なフィードバックを行い、評価する。</p>
地域連携	<p>1 FCE2025の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜開催し、地域(学校運営協議会)及びPTAと合同企画運営</li> <li>・地域の参加を増やす取組(創立150周年にちなんだ全体会の企画)</li> <li>→学校アンケートによる検証「学校は地域(学校運営協議会など)・保護者・学校の連携を図りながら、教育活動を進めている。」→99%</li> </ul> <p>2 環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA及び有志による環境整備作業の実施 →年3回以上→10回実施</li> </ul> <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方に環境面や学習面などさまざまな面でご支援いただき、多くの目こどもたちを育てることができた。FCEでは、年度当初より学校運営協議会と協議を重ね、児童の意見を取り入れながら、活動内容を計画してきたことで、保護者や地域の方の参加が、こどもも大人も和やかに触れ合う時間を過ごすことができた。好評であった。老人会の皆様にも、こどもたちに関わっていただいたので、これからも継続的にご支援いただけたらとありがたい。</li> </ul>	<p>○FCEは文化をテーマにしたが、とてもよかった。昔遊びに老人会の力を借りたのもとてもよかった。今後どんなことができるか意見が聞くとよいのではないかな。</p> <p>○映像など皆さんが盛り上がり、一緒に楽しめた企画だった。年代や出身に関係なく、地域の方にも大変関心を持ってもらえたと感じる。</p> <p>○創立150周年の聞き取り学習発表では、こども目線のため、斬新な感じがした。</p> <p>○多文化共生学習は、こどもたちが興味深く話を聞いていた。</p> <p>○地域との協働のものであった。主役のこどもたちの行動もすばらしかった。</p> <p>○地域の方もこどもたちが目をキラキラさせて楽しんでいたのがうれしかったと聞く。</p> <p>○現役世代は時間的余裕がなく、地域参加の促進は、お年寄りを頼るというやり方がうまく機能していると思う。こどもも、お年寄り双方により関わり合いができていた。</p> <p>○FCE以外の行事も、地域の人自由参加できる機会を設定していただきたい。</p> <p>○児童数が減少し、保護者数も少ない中、環境整備部長を中心に地域団体の協力が、適正に整備されている。みんなの学校という気持ちを大切にしていきたい。</p>	<p>・こどもたちの学びと安全・安心な生活を守るため、今後も地域と連携し、協働による教育活動を継続、発展させていく。</p> <p>・地域コーディネーターの円滑なサポートによる、ポラントピアの活用と学習環境の整備を継続するため、学校だより等を通して、活動の発信や募集を行う。</p> <p>・FCEを持続可能な取組にしていくために、地域人材の発掘と円滑な引継ぎを行う。</p>
働き方改革	<p>1 働き方改革の推進(1月末現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月3回定時退校日の設定 →勤務状況調査結果 達成率 73%</li> <li>・時間外労働月45時間超0人 →勤務状況調査結果 0人達成 20時間0分</li> <li>・会議短縮 →60分以内終了 目標80% 達成率74.7%</li> </ul> <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月45時間を超える職員は少ないが、その分持ち帰り仕事は依然多く、学校業務の精選、学校支援ボランティアの活用、教職員の意識改革、生成AIの活用等の働き方改革をさらに進めていく必要がある。</li> </ul>	<p>○先生方は指導内容の多様化で大変だと思う。心身の健康を第一にお願いしたい。</p> <p>○働き方改革は日常業務が減少できなかったため、達成が困難なところが見受けられる。会議等を精選し、学級業務に関する時間を十分に確保してほしい。</p> <p>○教員の心の余裕は、そのままたちへの対応や関わり方にもつながっていくと思うので、ぜひ働き方改革を進めていってもらえるとよい。</p>	<p>・生徒指導において、チームによる未然防止・早期発見・早期対応の体制を徹底する中で、放課後の時間を確保する。</p> <p>・校務支援システムを活用し、教材資料等をデータで管理することで、教職員の総勤務時間の削減を目指す。</p>
人権教育及び特別支援教育	<p>1 人権教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめや差別を許さない学級づくりと研修会の実施 →3回以上/年5回実施</li> <li>・研究授業の実施 →1回/年 1回実施</li> </ul> <p>2 特別支援教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の研修会実施 1回実施</li> </ul> <p>3 支援会議の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと保護者に寄り添った会議開催と内容の充実 →保護者からの聞き取り</li> </ul> <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな学校にしていきたいか、どんな自分を目指していきたいかをこどもたちに振り返らせることで、みんなが楽しく過ごせる集団を目指していきたい。一人ひとりのこどもをどう理解したらよいかを多面的に考えたい。</li> <li>・必要に応じた支援会議を適宜開催できたことで、保護者の理解を得られ、子ども一人ひとりの今後の見通しにつながった。</li> </ul>	<p>○私達親世代より、いじめや差別は随分少ないように感じる。大人が見本となるよう、こどもたちが受ける人権教育や特別支援教育の中身を保護者も共有できればと思う。</p> <p>○人権フォーラムらしい取組が各学校で大きく広がっていくとより意義のあるものになる。代表者が学校で討議した内容を的確に発表できていて、とても立派であった。あのような児童が増えたら、いじめは皆無となる。</p> <p>○特別支援教育は、一人ひとりがとても大切にされていると様々な場面で感じた。</p> <p>○いじめは受けた側が嫌だと感じている、遊びの一貫に考えてしまうことも多い。周りの大人が、人の思いをどのように察知していくのか、根拠よく伝えたい。</p> <p>○以前見かけた保健室にランドセルが5-6個の朝、先生の負担が大きくなるように感じた。先生方の支援もかなり必要と感じる。</p> <p>○単学年のため、人間関係が固定化しないよう、教職員で情報交換し、一人ひとりのこどもたちが居心地のよい集団を作っていく。こどもたちのささいな言葉にも耳を傾けていただき、一人ひとりのよさを生かし、育ててほしい。</p>	<p>・「いじめやけんかのない学校」にするため、いじめや差別につながる言動に気づき、立ち止まり、なくしていくこうとする態度を育てる学習を行う。</p> <p>・ピンクジャツ運動や人権集会等、学校での取組と、学校だより等で家庭や地域に発信する。授業参観も検討する。</p>
情報発信	<p>1 学校からの情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校だより」「学年だより」の発行 2回以上/月 1月末時点で平均月3.5回</li> <li>→学校アンケートによる検証「学校は、学校だより等を通して教育方針や活動内容を分かりやすく伝えている。肯定的回答 95.9%</li> </ul> <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だよりを39号(2月27日現在)発行し、学校の様子を保護者、地域の方に発信することができた。</li> </ul>	<p>○学校だよりで、最新の活動を発信していただき、児童の生き生きとした様子が伝わってくる。生きる力につながる活動を多く設定していただいているのがよく分かる。</p> <p>○マチコミを通じ、きめ細かく適宜情報をいただいている。地域にも自治会の回覧で周知しているため、満足している。やはり回覧で紙で読む方が好きである。</p> <p>○マチコミの配信により、保護者の目にもとまりやすくなった。写真が多い方が反応はよいと思う。</p> <p>○質・量とも十分である。無理なく継続していただければと思う。</p> <p>○来年度から市報が月1回になり、回覧も地域によっては少なくなると思う。学校からの便りが送れることがないようにお願いしたい。</p>	<p>・学校だよりは、月1回以上マチコミで配信し、地域に回覧する。教育活動のねらいや成果を丁寧に発信し、保護者や地域との連携を図る。</p>